第21回 宇美町少年・少女の主張大会 最優秀賞

小学生の部
かみの毛で笑顔に

宇美小学校 6年 中田 沙良

「ジョキ、ジョキ。」

いつもとちがう音。束にしているかみの毛が切られる音は、いつもより大きく聞こえます。切ったかみの毛を見ると、私が思っていたよりもずっと長くなっていました。私は、だれかの役に立つことが私にもできると思うと、うれしくてたまらなくなりました。

私は、三年生の三学期に、初めてテレビで「ヘアドネーション」という言葉を聞きました。ヘアドネーションとは、小児がんや脱毛症、事故などでかみの毛を失った子どものウイッグを作るために、かみの毛を寄付することです。

テレビでは、私と同じくらいの女の子がヘアドネーションをしていました。私の目はテレビに釘付けになりました。

これは、私にもできる。だれかの役に立つことができる。私もぜひ参加してみたい。そう思った私は、早速お母さんと一緒にヘアドネーションについて調べました。すると、三十一センチメートル以上のかみの毛が必要だと分かり、かみの毛が短かった私は、それからのばし始めました。

だんだん長くなってくると、かみの毛を洗うのは大変で、毎朝、かみの毛を結ぶのも時間がかかりました。だけど、「かみがきれいだね。」と言われると、うれしくなりました。

そして、ようやく三十センチメートルを超えたのは、三年後、六年生のゴールデンウイークを迎えた頃でした。

「よし、もう足りる。かみの毛を切ろう。」と、私は決心しました。

その決意を知ったお母さんは、ヘアドネーションができる美容室をインターネットで探し、予約を入れてくれました。だんだんかみの毛を切る日が近付いてきます。

私の心の中に、うれしい気持ちがこみ上げてきた半面、不安な気持ちも顔をのぞかせてきました。三年かけてのばしたかみの毛を切るのはさみしい。次は、どんなかみ型になるのかな。そのかみ型は、私に似合うのかな。

私は、かみの毛を切るその日まで、長いかみの生活を楽しむことにしました。鏡を見ながら、色々なかみ型を試したり、写真をとったりして、毎日を大切に過ごしました。

いよいよ迎えたかみの毛を切る日。私はいつもより早く目が覚めました。そして、不安と楽しみが入りまじった気持ちのまま、美容室に向かいました。その美容室は、おしゃれで、美容師さんは、優しそうで少しほっとしました。

まず、かみの毛の長さをはかりました。三年間のばした私のかみの毛は、三十五センチメートルあるところもありました。そして、六本の束に分けて、いよいよ切り始めました。

「ジョキッ。」

かみの毛が切られるしゅん間、私は、背すじを真っすぐのばして、はさみが入るところを見ていました。切り終わったとき、鏡の中で見る私は、ちがう自分みたいで、私は、その時、生まれかわった気持ちになりました。それと同時に、私のかみの毛で生まれかわった気持ちになれる人が一人でもいると考えると、さらに幸せな気持ちになりました。

今年の夏休みには、調べる学習で、「ヘアドネーション」について、さらに学びました。そして、海外でもヘアドネーションが、はやっていること、日本人のかみの毛は、日本人の子どもに届くということを知りました。

私のかみの毛で、どこかのだれかが元気になってくれるとうれしい。自分の行動がだれかが笑顔を見せてくれるもとになると幸せな気持ちになる。そんな気持ちをみんなに広げていきたい。だから、私はまたかみの毛をのばそうと思います。新しくなった自分を私はとても気に入っています。

中学生の部
挨拶から始めるコミュニケーション

宇美東中学校 2年 西村 庵

私が二年生になったばかりの頃、こんなことがありました。学校からの帰り道、通学路のゴミ拾いをしてくださっている地域の方に出会ったのです。そこで私は、「こんにちは。ありがとうございます。」と挨拶しました。すると、その方は、「おかえり、部活？大変やねえ。がんばってね。」と返事をしてくれました。このとき私は、心がふわっと温かくなるのを感じました。そして、挨拶をしてよかったと思いました。

人と人がふれあう時をさして、「コミュニケーション」という言葉をよく耳にしますが、実際にはどのような意味の言葉なのでしょうか。私は、辞書を引いてみることにしました。

辞書には、「気持ち・意見などを、言葉を通じて相手に伝えること。通じ合い。」と書いてありました。

このコミュニケーションがうまくとれない場合、どのようなことが起こるでしょうか。人と人との間ならば、心のすれ違いや相手に対する不信・時にはケンカなども起こってしまいます。これが国家単位になったときには、戦争にまで発展してしまうかもしれません。実際、最近のニュースを見ていると、コミュニケーションがうまくとれていないことが原因で、多くの外交問題が発生しています。これは、とても悲しいことだと思います。このようなことを防ぐためには、お互いの対話が重要になってきます。顔を合わせながら、自分の気持ちを、表情を交えながら実際に話すことが欠かせません。SNSやメール・LINEなどは、相手の表情や口調が分からないうえ、短い文なので対話には向かないと思います。

そこで、コミュニケーションを円滑にするために、どのような方法があるのかを考えてみましょう。最も効果的な手法が、挨拶だと思います。

私の通う宇美東中学校では、様々な行事において、地域の方々への挨拶をとても大切にしています。例えば、地域清掃活動であるラブアース・地域の0～2歳児が保護者と一緒に集まってくる子育てサロンなどがそうです。ここでは、自ら進んで挨拶をしたり、相手の目を見て会話することで、相手との距離を縮めて、コミュニケーションをとりやすい雰囲気を作り上げています。日頃顔を合わせることが少ないからこそ、はじめの挨拶は大切なのです。

私は、地域においても出会った人には積極的に挨拶することで、コミュニケーションのきっかけを作るように心がけています。その際、相手の目を見て元気よく挨拶することも欠かしません。すると、お互いに会話をしやすくなり、これがきっかけで仲よくなることができるのです。余談ですが、挨拶の多い町には犯罪が少ないと聞いたことがあります。理由として、挨拶をするときには必ず相手の顔を認識するため、犯罪者は自分の顔を認識されるのを嫌うからということでした。挨拶には、このような利点もあるのです。

冒頭の会話のように、こちらから挨拶をすると、ほとんどの人が挨拶を返してくれます。なぜなら、挨拶をされて嫌な思いをする人はいないからです。挨拶をきっかけとして身近な人たちとコミュニケーションを深めることができます。そうすれば、より住みやすく過ごしやすい社会を作り上げていくこともできるのではないでしょうか。

私は、これからも学校や地域の行事に積極的に参加し、より多くの人と挨拶を交わし合いながら、コミュニケーションを深めていきたいと思います。

「ああ、おはよう。今から学校？がんばってね。」

「ありがとうございます。今日はいい天気ですね。行ってきます！」

問 社会教育課 社会教育係 ☎933-2600

専門スタッフがお子さん1人ひとりにあった支援を行います。すくすくだより

個別療育（療育訓練・発達相談）を行っています。

こども療育センターすくすくでは、専門スタッフ（臨床心理士・言語聴覚士・作業療法士）と５人の保育士が、それぞれ「個別療育」と「集団療育」を行っています。今回は「個別療育（療育訓練・発達相談）」を紹介します。

個別療育（療育訓練・発達相談）について

- 臨床心理士が、お子さんの様子を伺い、困っている事について、1人ひとりに合った支援を一緒に考えていきます。必要に応じて、発達検査を行い今後のアドバイスを行います。
- 言語聴覚士が、ことばの遅れや不明瞭な発音・吃音などで心配なお子さんについて相談を受けます。舌の動かし方や、口の開け方などを見て具体的なアドバイスを行います。
- 作業療法士が、歩く・登る・走るなどの運動の基礎づくりをします。

臨床心理士からひとこと

子どもって個性的! その個性の中には、苦手も得意も含まれます。苦手がない人なんていません。得意なことを存分に発揮して、楽しんだり挑戦したりするためには、まず、大人がその子の苦手なことを知ってあげることから始まります。苦手なことは応援してもらい、得意なことを楽しんで伸ばしていったら…あれ?! 苦手だと思っていたけど、それって他の人にはない、この子だけの個性!って発見することもしばしばです。そんな応援!させてくださいね。

作業療法士からひとこと

作業療法では、体の使い方や生活の中での動作など、さまざまな視点からサポートしています。また、遊びには子どもの運動機能や知的機能の発達に加えて、情緒・社会性・コミュニケーションを学んでいくための要素もたくさん含まれています。その中で子どもの「できた!」という体験を増やし「楽しい!」「やってみよう!」と思えるように遊びを通して発達を促していきます。

発達相談について

①ことばの遅れ
②運動面がゆっくり（歩き始めが遅い）
③激しいかんしゃく
④落ち着きがない
⑤ことばが不明瞭
⑥夜眠れない
①～⑥などについて気になる事がありましたらご相談下さい。

▶受付方法
電話予約 ☎934−3933（8:30～17:00）

▶対　象
0歳から小学校入学前までのこども

▶相 談 日
初回相談は、月曜日に1時間程度実施します。その後、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士による個別療育がスタートします。個別療育の時間は9:10～16:00、1回40分程度です。

集団療育を利用されているお子さんの保護者会主催による、学習会の様子です。テーマは「ペアレントトレーニング（褒め上手になるために）」で、ご自身の日頃がんばっていることをふり返り、たくさんの思いを出し合いました。とても有意義な時間となりました。

作業療法士による個別療育の様子です。プラットホームスウィングに乗り、輪投げをしています。この動作の中には、しっかりとロープを握り、バランスを取りながら姿勢を維持する。揺れや回転の中で、タイミングをはかり、輪を投げるというさまざまな動作が含まれています。これらの運動機能を、遊びを通して楽しみながら習得していきます。

問 こども療育センター「すくすく」（貴船2-40-2）
☎934-3933
～お気軽にご相談ください～